

令和7年度草津市立教育研究所第2回運営委員会

日時 令和8年2月5日(木)

15:30~16:45

場所 教育研究所 研修室

次第

- 1 開会のあいさつ(教育研究所長 小林 悦子)
- 2 令和7年度事業の実績と課題について
 - (1) 研修事業について
 - (2) 学校支援について
 - (3) 調査研究に関する事業について
 - (4) 教育相談に関する事業(やまびこ教育相談室)について
 - (5) スキルアップアドバイザー配置事業について
 - (6) その他
- 3 令和8年度の事業計画について
- 4 閉会のあいさつ(教育研究所長 小林 悦子)

令和7年度 草津市立教育研究所運営委員会運営委員 (敬称略)

	団体等	氏名	所属
1	学識経験を有する者	系乗 前	滋賀大学教育学部教授
2	校長会の代表	辻 大吾	老上中学校長
3	園長・所長の代表	角 明美	老上こども園長
4	教頭会の代表	大西 智美	草津中学校教頭
5	小中学校教員の代表	鵜飼 裕美	草津小学校教諭
6	市社会教育委員の代表	香川 幸希	草津市社会教育委員会議代表
7	市立小中学校の保護者	國松 秀雄	
8	市同和教育推進協議会の代表	片山 恵泉	市同和教育推進協議会副会長
9	公募による市民	黒川 清香	
10		宮内 弥生	

○研究所職員一覧

		氏名	担当業務
1	所長	小林 悦子	所内事務の総轄
2	副参事	恒松 睦美	SSW (スクールソーシャルワーカー)
3	副参事	青木 努	所内事務 (児童生徒支援課と兼務)
4	指導主事	三品 友博	所内事務・事業運営全般
5	研究員	玉木 裕	調査研究
6	指導員	石井 千鳥	やまびこ教室 担当 教育相談・学校支援
7		武内 昭遵	
8		藤井 弘美	
9		宮地 均	
10		角 玲子	
11		西村 忠泰	
12		小川 絹子	
13		木戸脇 美由紀	
14	スキルアップアドバイザー	清水 康行	小中学校教員のスキルアップ支援
15		山崎 賢	
16		仲野 忠克	ICT活用のスキルアップ支援
17		糠塚 一彦	

令和7年度事業の実績と課題について

令和7年度 夏期研修講座(研究発表大会講演含む)について

1 開設講座

人数制限を設けず、希望者は全て対面で参加できるように計画した。参加者が多い講座については、サテライトとして別教室とつないで実施した。

【一般講座…14講座 くさつ教員塾…1講座】

また、NITS(独立行政法人教職員支援機構)のオンライン研修サイトを紹介し、いつでも研修が可能な体制を整えた。

2 受講状況

受講者数(一般講座・くさつ教員塾・研究発表大会講演)… 973名

3 受講者評価

受講者が講座終了後に、満足度を4段階(「満足」「ほぼ満足」「やや不満」「不満」)で評価。

講座 平均満足度
96.6%

4 成果と課題

【成果】

- ・参加人数の多い講座はサテライト会場を設けてオンラインでつないだり、後部席からでも研修資料が見えやすいようにダブルスクリーンにしたりするなど、環境や設備等に工夫を凝らすことで希望者には全て参加していただくことができた。
- ・「働き方改革の推進」、「チーム学校体制の充実」など第4期草津市教育振興基本計画の基本施策に沿った内容で講座を計画することができた。
- ・幼児課やこども家庭若者課との共同で開催し、研修することができた。
- ・1講座あたりの参加人数が増加した。(令和6年度 61名 → 令和7年度 65名)
- ・公立の教職員には研修資料をデータ配信し、タブレット端末や PC を持参していただくことで資源の節約をすることができた。(ペーパーレスの取組)
- ・NITS のオンライン研修を紹介し、51回の動画視聴をしていただくことができた。

【課題】

- ・講座による人数の偏りがあるので、どの講座においても、なるべくたくさんの教員が参加できるように、講座内容の精選および発信の仕方の工夫をする必要がある。
- ・教科に関わる講座が1講座(体育科)のみになったので、教科に関する講座を設定していく必要がある。

令和7年度 自己啓発講座について

1 事業概要 平日の夕方から行う、実技的な演習をメインとする研修講座

2 開設講座一覧(時間は主に、15:50~16:50、実質1時間)

	実施日		演題	講師
1	11/7	金	【教育相談】 不登校への向き合い方と義務教育終了後の支援について	一般社団法人 Atlas 代表 日野 貴博 さん
2	11/11	火	【体育科】 今日の子どもの姿から、明日の体育の授業をつくる8	滋賀大学教育学部 准教授 山田 淳子 さん

3 会場および参加人数と満足度

	会場	参加者数	平均満足度
1	教育研究所 2F研修室	13	100%
2	矢倉小学校 体育館	17	100%

・延べ参加者数 30人 (昨年度は4講座で 延べ22人)

・全講座平均満足度 100%

4 成果と課題

【成果】

- ・1講座あたりの参加者数が増加した。体育科では、こども園からも参加され、充実した研修となった。
- ・教育相談は、「義務教育卒業後の相談先や居場所」について紹介していただき、小学校や中学校の教職員にとって、大変興味深いお話をさせていただきました。

【課題】

- ・講師との日程調整がうまくいかず、予定していた講座が開設できなかったため、計画的に講師との調整を進めるようにする。
- ・1講座あたりの参加者数が増加したが、まだまだ多いとは言えないので、開催時期や講座内容、周知方法など、教職員にとってより参加したいと思える方法を考えていく必要がある。

令和7年度 草津市教育研究奨励事業について

- 1 目的(概要) 市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の推進を図る。
学校・園、学級等の経営や学習指導方法の改善と充実を図る。

2 応募部門

①	ステップアップ研究 (経験年数は問わない)	これまでの研究実践をふまえて、さらに創造的な実践や今日的課題を追究する実践を積み重ねた研究
②	フレッシュ研究 (若手教職員を対象とした研究)	経験10年未満の教職員が行う実践研究
③	就学前教育研究 (こども園・保育所の職員を対象とした研究)	幼児教育・保育の実践を整理し、レポートとしてまとめることによって教育力・保育力を向上させる実践研究

3 応募点数

	就学前部門	フレッシュ 研究部門	ステップアップ 研究部門	合計
就学前	2			2
小学校		4	9	13
中学校		6	2	8
教育委員会			2	2
合計	2	10	13	25

4 成果と課題

【成果】

- ・経験の浅い教職員だけでなく、実践力や研究推進力の向上を考えておられる教職員のスキルアップの場となった。
- ・「協働的」「主体的」にこどもが学習に取り組むことができるように考えられた研究内容が多かった。
- ・今年度も応募締め切り後すぐに論文作成講習会を開催することで、完成までの見通しをもって取り組んでもらうことができた。
- ・研修の一つとして位置付けた前年度の優秀論文の発表を夏の研究発表大会で実施することで、論文作成の参考にさせていただいた。

【課題】

- ・昨年度より応募数が減少した。教職員の実務多忙化による負担感が影響していると考えられるので、教職員の実情に配慮しつつ、応募しやすいテーマ設定や支援の方法について検討が必要である。

令和7年度 論文作成講習会・研究発表大会について

1 実施内容

	実施日		講師・発表者
論文作成講習会	6月20日	金	滋賀県総合教育センター 学ぶ力向上係 高田 真奈美 さん
研究発表大会① 奨励論文・研究 論文発表会	7月30日	水	①草津中央おひさまこども園 わくわくする保育を考える会 高谷 武志 さん 「とびだせ!おひさま探検隊～体験から広がるわくわくの世界～」 ②草津市立小中学校事務共同実施推進協議会 未来部会 代表 藤川 亮 さん 「共同実施の未来を楽しく」有志による取り組みと効果について」 ③志津南小学校 水野 颯人 さん 「主体的に学級をよりよくしようとする児童の育成を目指して ～レーダーチャートの活用を通して～」 ④笠縫小学校 玉木 裕 さん(令和6年度教育研究所研究員) 「不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援の在り方に関する研究 ～登校支援室の運用と教職員の関わりを通して～」
研究発表大会② 教育講演会			滋賀大学教育学部 教授 大平 雅子 さん 「教育現場における科学的アプローチ」

令和7年度 学校支援(学校問題サポートチーム会議)について

1 弁護士相談 (年間40回)

- ・峯本弁護士と加藤弁護士の2名。
- ・教職員だけでは対応できない諸問題に対して専門的なアドバイスをいただく。

2 社会福祉士による学校訪問

- ・周防先生に学校訪問していただき、こどもの様子を見て助言をいただく。

3 成果と課題

【成果】

- ・想定しているより多くの相談件数であった。
- ・専門的な立場からのアドバイスをいただくことで、教職員が安心して学校で発生する諸問題に対応することができる。

【課題】

- ・相談の要望がある学校に偏りがあり、相談の方法についても認知されていない学校や担当者もおられるので、会議の場等を利用し、申請の方法や実際の動き等について周知していく。
- ・相談できる日時は決まっているので、相談件数が重なると1件あたりの相談時間が短くなり、相談者が満足のいく回答までたどり着けないことがあった。

令和7年度 研究員による調査研究について

1 研究主題 不登校児童生徒の社会的自立を育む登校支援室の運用に関する研究
～協働学習の充実の視点から～

2 研究概要

令和5年3月に文部科学省より出された誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策【COCOLO プラン】では、『学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする』と記されている。また草津市では、令和6年度より、すべての小中学校に登校支援室を設置し、加配教員も配置され、児童生徒の居場所作りの運用が始まった。本研究では、個別の支援だけではなく、協働学習を行うことによって社会的自立に関係する力が育まれるかを示していきたい。社会的自立のためには、他者と関わっていく力が必要であり、登校支援室内での協働学習により“対人関係能力”の向上を目指した。

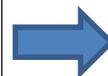
3 研究の方法

- (1) 研究協力校の登校支援室利用児童の実態把握。
- (2) 質問紙調査の結果を把握・分析。
- (3) 研究協力校の教育相談担当教諭と協力して質問紙調査の結果を基に活動実践を行う。
- (4) 実践の結果を考察し、協働学習による対人関係能力について検証する。

4 研究の内容

研究協力校で3つの協働学習を実践し、児童の変容を観察した。

- ① 登校支援室内での話し合い活動（はぐくみタイム）
- ② 登校支援室内での植物の世話、観察による学習
- ③ 登校支援室内の掲示物の作成、掲示



質問紙調査、児童の行動の変容によって、協働学習の効果について分析。

5 研究の成果と課題

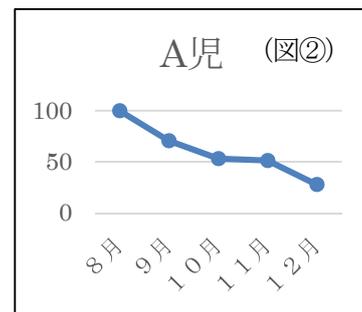
研究の成果

(1) 自己表現、他者への共感力の向上

話し合い活動での発言できる児童が増えた。また質問紙調査より、「自分の意見が言える」「人の話に共感できる」に肯定的な回答された割合が約20%増加した。

(2) 登校支援室で過ごす時間の減少

常時、登校支援室を利用している児童は、2学期当初から末にかけて、学校生活の中での登校支援室で過ごす時間の割合が減少した。これは登校支援室内での小集団から、自教室の大きな集団へ適応していったと考えられる。しかし学習による理由や一時的な対人不安による理由など、登校支援室と自教室を併用している児童にはあまり変化が見られなかった。



児童の例

今後の課題

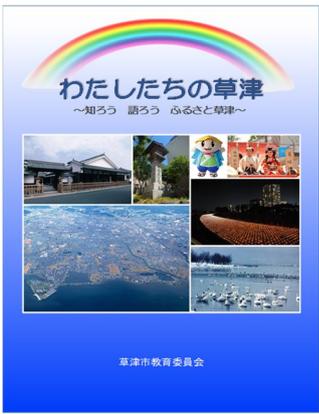
- (1) 自己表現の数値は高くなったのだが、自分が困った時に助けを求めたり、人に頼ったりすることは苦手なままであった。協働学習での振り返りをし、全員で困り感の共有が必要ではないかと考える。
- (2) 登校支援室には、登校に対して不安定な児童も複数人いる。その児童に対しての協働学習を進めることができなかった。登校に不安定な児童に対しても学習を共有できるような仕組みを設定すべきであった。

地域教材（わたしたちの草津）の編集について

1. 今年度の取り組み（指導書の一部改訂）

令和5年4月に発行された社会科副読本「わたしたちの草津」（部分改訂版）にかかる指導書の一部改訂を行った。主に指導書の見直し（40分授業に向けて、児童主体の学びになるように）を行った。

- ・第1回編集委員会…………… 令和7年 5月23日
- ・各委員による作成、見直し、編集作業… 令和7年 5月～令和7年11月
- ・第2回編集委員会（途中経過報告）… 令和7年 8月22日
- ・第1回推進委員会（原稿確認）…………… 令和7年12月26日
- ・第3回編集委員会（全体会）…………… 令和8年2月12日（予定）



- ・編集作業を行った原稿に関しては、事務局にて印刷予定。また、完成した指導書に関しては副読本と合わせて令和8年3月に各小学校へ配布予定。
- ・令和6年度編集作業を行った社会科副読本「わたしたちの草津」の印刷を行う。

2. 今年度の取り組みの紹介

指導書「わたしたちの草津」

- ・副読本「わたしたちの草津」について、編集委員が内容を精査し、一部改訂を行った。
- ・グラフや表などデータの更新を行った。

<一部、紹介>

- ・タブレット端末の活用例の見直し、追記。
- ・QRコードの動作確認。
- ・副読本の改訂（令和6年度編集）に伴う変更点の見直し
- ・午前5時間制（40分授業）に合わせた単元時数の変更
- ・児童主体の学習になるように文言の変更
例) 気づかせる→気づくように促す

1. わたしたちの住んでいるところ 1 単元名 草津市の様子 (P. 7～18) 2 学習指導要領内容 (1) 身近な地域や市町の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること (ア) 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解する。 (イ) 見学や観察、聞き取りなどの調査活動や地図帳や写真、実物などの具体的資料を通して調べ、 <u>白地図などにまとめる。</u> イ 次のような思考力、判断力、表現力などを身に付けること (ア) 自分たちの市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目し、 <u>身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いについて考える。また、考えたことを文章で記述したり、資料などを用いて説明したり話し合ったりして表現する。</u> 3 単元目標 身近な地域や市の様子について、自分たちの市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目し、調査活動、地図帳や具体的資料を通して、必要な情報を調べ、身近な地域や市における場所による違いについて考える。また、身近な地域や市の様子について考えたことを表現できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や市に対する誇りと愛情を養う。 4 評価規準 (例) <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①自分たちの住んでいる身近な地域や市の様子を大まかに理解し、場所によって違いがあることがわかる。 ②見学や観察、聞き取りなどの調査活動や地図帳や写真、実物などの具体的資料を通して調べ、<u>白地図などにまとめている。</u></td> <td>①自分たちの市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目し、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いについて考え、考えたことを表現している。</td> <td>①身近な地域や市町の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。</td> </tr> </tbody> </table> 5 主な学習の流れと活用の実践 (11時間) <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>学習の流れ</th> <th>活用の実践と指導のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>つ か お 2 ①市の航空写真を見て、土地の違いの様子に心をもち、土地の特徴を調べる計画を立てる。 ②「わたしたちの住む草津市はどんなところだろう」 時間 ○航空写真を見て、わかったこと、気づいたこと、思ったことを発表する。 市の地図を見て、行ったことのある場所を紹介し合う。 ・びわ湖の近く ・草津駅、南草津駅の近く ・山の近く</td> <td>・航空写真を見ておおよその校区の場所を確認したり、市全体の様子を見たりして、場所によって特徴があることに気づくようにする。 ・びわ湖の近く、駅の近く、山の近くの様子に違いがあることに気づくようにする。 ・<u>わたしたちの草津市の航空写真から、地形の特色（琵琶湖に近い、山に近い、草津川）、土地利用の様子（田んぼが多い、工場が多い）、公共施設、交通の様子などを読み取る。</u> ・シンキングツール（Xチャート等）を活用して、上記の視点ごとに分けて多面的に見られるようにし、大まかに特色を捉えられるようにする。</td> </tr> </tbody> </table>			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	①自分たちの住んでいる身近な地域や市の様子を大まかに理解し、場所によって違いがあることがわかる。 ②見学や観察、聞き取りなどの調査活動や地図帳や写真、実物などの具体的資料を通して調べ、 <u>白地図などにまとめている。</u>	①自分たちの市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目し、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いについて考え、考えたことを表現している。	①身近な地域や市町の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。	学習の流れ	活用の実践と指導のポイント	つ か お 2 ①市の航空写真を見て、土地の違いの様子に心をもち、土地の特徴を調べる計画を立てる。 ②「わたしたちの住む草津市はどんなところだろう」 時間 ○航空写真を見て、わかったこと、気づいたこと、思ったことを発表する。 市の地図を見て、行ったことのある場所を紹介し合う。 ・びわ湖の近く ・草津駅、南草津駅の近く ・山の近く	・航空写真を見ておおよその校区の場所を確認したり、市全体の様子を見たりして、場所によって特徴があることに気づくようにする。 ・びわ湖の近く、駅の近く、山の近くの様子に違いがあることに気づくようにする。 ・ <u>わたしたちの草津市の航空写真から、地形の特色（琵琶湖に近い、山に近い、草津川）、土地利用の様子（田んぼが多い、工場が多い）、公共施設、交通の様子などを読み取る。</u> ・シンキングツール（Xチャート等）を活用して、上記の視点ごとに分けて多面的に見られるようにし、大まかに特色を捉えられるようにする。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度										
①自分たちの住んでいる身近な地域や市の様子を大まかに理解し、場所によって違いがあることがわかる。 ②見学や観察、聞き取りなどの調査活動や地図帳や写真、実物などの具体的資料を通して調べ、 <u>白地図などにまとめている。</u>	①自分たちの市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目し、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いについて考え、考えたことを表現している。	①身近な地域や市町の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。										
学習の流れ	活用の実践と指導のポイント											
つ か お 2 ①市の航空写真を見て、土地の違いの様子に心をもち、土地の特徴を調べる計画を立てる。 ②「わたしたちの住む草津市はどんなところだろう」 時間 ○航空写真を見て、わかったこと、気づいたこと、思ったことを発表する。 市の地図を見て、行ったことのある場所を紹介し合う。 ・びわ湖の近く ・草津駅、南草津駅の近く ・山の近く	・航空写真を見ておおよその校区の場所を確認したり、市全体の様子を見たりして、場所によって特徴があることに気づくようにする。 ・びわ湖の近く、駅の近く、山の近くの様子に違いがあることに気づくようにする。 ・ <u>わたしたちの草津市の航空写真から、地形の特色（琵琶湖に近い、山に近い、草津川）、土地利用の様子（田んぼが多い、工場が多い）、公共施設、交通の様子などを読み取る。</u> ・シンキングツール（Xチャート等）を活用して、上記の視点ごとに分けて多面的に見られるようにし、大まかに特色を捉えられるようにする。											

3. 次年度について

- ・次年度は、令和8年度から使用予定の社会科副読本「わたしたちの草津」、指導書にかかるワークシート、評価テストの編集作業を行う予定。

令和7年度 やまびこ教育相談室

1. 教育相談【電話相談・面談】

- ・やまびこ教育相談室の案内チラシを shigfy を通して小中学校全保護者に配布するとともに、各こども園、幼稚園、保育所には掲示ポスターを配布し、相談のきっかけの一つになっている。
- ・案内以外には、学校からの紹介がほとんどで、発達支援センター、こども家庭若者課からの勧めによるものもあった。

○電話相談

- ・今年度より土曜相談を実施し、相談の機会を広げることができた。
⇒相談者のほとんどが保護者であった。初回の電話相談にて、生育歴、困り感、家族の状況などを聞き取りながら対面での相談に繋がるように努めた。

○面談

- ・相談者は保護者が多く、主な相談内容はこどもの不登校や行き渋りについてであった。
- ・保護者に関しては、継続して面談を利用するケースが多かった。
- ・今年度より心理士の配置が実現し、多くのケースは母子並行面談で、同時刻に保護者は面談室、こどもはプレイルームにて心理士の面談も含め相談員が面談を行った。また、子どもが来室できない場合は、保護者だけの継続面談を実施した。
⇒やまびこ教室に通室する児童生徒や保護者に対しても定期的に継続して、心理士や相談員と面談を行い、見立てや今後の対応について共有し、共通理解を図った。

2. 学校支援

- ・児童生徒により良い支援を行うため、学校訪問を行い学校と連携し情報交換を行う。
- ・定期的に学校や関係機関が集まって話し合うケース会議に参加する。
⇒各学校の教育相談担当の教職員との関係が深まり、密に連絡を取ることができた。
⇒教職員からの相談を受けて継続面談ややまびこ教室につなげることができた。

《今後に向けて》

- ・市内の教職員に向けてやまびこ教育相談室のシステムや活動への理解促進に努める。
- ・不登校児童生徒への支援について、学校との綿密な連携の中で、家庭環境・個人の性格傾向・特性等を総合的に把握・検討し、早期に適切な対応を図る。

3. やまびこ教室【青地・上笠・野路】

今年度の活動

○小集団での取り組み

あそびを中心とした活動や生活を通して、コミュニケーションやソーシャルスキルの向上を図った。

○好きや得意を育む取り組み

読書、折り紙、工作など児童生徒の興味関心に合わせ自分と向き合うための活動に取り組む。

○生活力を育む取り組み

声掛けや教室環境の工夫を行い、自分のことは自分でできるよう促した。

あいさつ、掃除、荷物の管理など、掲示や環境の設定を工夫した。

○特別活動

人との関わりを学び、協調性や生活力、所属感や仲間意識を育むことをねらいとし、調理実習や野外活動を実施した。

次世代文化交流事業活動や外部講師を招いての行事、地域ボランティアの野外活動を通して多くの
人との交流を図った。

○学びへの支援

児童生徒の学びへの興味関心に合わせて、教室環境を整えたり、活動を取り入れたり、各自が準備した自主学習への声掛けをしたりすることで学びを促した。

学習ソフト「天神」により自学自習を進めることができた。

○その他

植物の生長や収穫を楽しみ、野菜を使って調理することで、児童生徒が自分でできることをみつけたり、役割を感じたりできるようにした。

今年度の取り組み成果

① 学校への復帰において

⇒登校(別室、放課後等含む)の機会が増えた。

⇒やまびこ教室の来室により、担任や関係教員との心の距離が縮まった。

② 特別活動を通して

⇒行事への参加により、初めてのことや苦手なことにも取り組んだり、達成感を得たりすることができた。

③ 様々な人やものとの関わり

⇒友だちや人がしていることに関心を寄せるようになった。

⇒パソコンを利用しながら進んで学習に取り組み、関心を広げることができた。

④ 個の変容

⇒やまびこ教室が居場所の一つとなり、安心して通室できるようになった。

⇒互いによさを認め合う環境の中で、自分に自信を持てるようになった。

⑤ 情報の共有

⇒学校や保護者と共通理解が図れ、個に応じた適切な支援を継続して行うことができた。

《今後に向けて》

- ・個の支援として関係者および関係機関との連携による的確な見立てや手だてが必要である。
- ・安定して過ごせる環境づくりと個別の対応への人的配置の難しさがある。
- ・中学卒業後の相談機関へつなぐ手立てや関係機関とのネットワーク作りを充実させる。

令和7年度 スキルアップアドバイザー配置事業について

◆訪問回数及び支援人数(令和7年度 1月末現在)

授業づくり・学級づくり支援			ICT 活用支援				
		(訪問回数)	(支援者のべ人数)			(訪問回数)	(支援者のべ人数)
小学校	148回		199名	小学校	89回		95名
中学校	48回		59名	中学校	42回		61名
		共通 スキルアップ夏季講座 1回 40名					

◆対象者の内訳

	授業づくり・学級づくり支援				ICT 活用支援				合計
	小学校		中学校		小学校		中学校		
	人数	うち他市町からの異動	人数	うち他市町からの異動	人数	うち他市町からの異動	人数	うち他市町からの異動	
臨時講師等	16	6	6	5	3	1	3	3	28
新規採用後 ~3年次	13	0	3	0	5	2	2	0	23
経験年数 4~9年次	8	6	0	0	11	6	6	5	25
経験10年以上	1	1	0	0	6	2	0	0	7
計	38	13	9	5	25	11	11	8	83

◆訪問・支援内容

授業づくり・学級づくり支援	ICT 活用支援
・年度初めの校長面談(4月~5月)	・年度初めの校長・情報担当者面談(4月)
・授業参観と指導助言(4月~7月)	・授業支援(4月~2月)
・OJTリーダー等の授業参観と懇談(6月~7月)	・ステージ別研修(5月,8月,10月)
・夏季支援講座(7月)	・夏季支援講座(7月)
・指導案検討(8月~9月)	・プログラミングコンテスト(12月)
・研究授業と授業検討会(9月~12月)	
・指導内容についての校長面談(12月)	
・授業参観と指導助言(1月~2月)	
(予定)年度末校長面談(2月~3月)	・年度末校長面談(2月~3月)

◆支援の重点

授業づくり・学級づくり支援	ICT 活用支援
・授業づくりの基本を身につけるように	・教師が授業にICTを活用して指導する能力
・授業観の転換を図れるように	・児童生徒のICT活用を指導する能力
・今日的な授業展開の開発	

令和8年度の事業計画について

●教職員の研修に関わって

- ・教職員および保育士の資質向上に資する事業を展開する。
- ・草津市の教育および保育向上を図る事業を展開する。
 - ①草津市教職員夏期研修講座 … 10講座程度を予定
 - ②自己啓発講座 … 4講座程度を予定
 - ③教育研究奨励事業 … 市内20小中学校から各校1本以上の応募を目指す

●学校支援に関わって

- ・弁護士相談・社会福祉士による学校訪問を継続する。

●調査・研究に関わって

- ・学習指導要領(H29告示)に対応した教育課程に関する調査、情報収集を行う。
- ・研究員による調査研究を継続する。
- ・令和8年度から使用する副読本「わたしたちの草津」のワークシートや評価テストの作成・配布を行う。

●教育相談に関わって

- ・不登校および不登校傾向にある幼児児童生徒とその保護者への支援を行う。
 - ① 電話および来室による教育相談を実施する。
 - ※業務委託として土曜日の電話相談を継続で実施する。
 - ※週に1回、心理士面談を継続する。
 - ② 学校および関係機関と、課題解決に向けての連携を密にする。
 - ③ 不登校のこどもを持つ保護者会を年間3回程度実施する。
- ・教育支援センター「やまびこ教室」における小集団活動等を通して、児童生徒の社会的自立を目指す。
 - ①他機関との連携
 - ②学習支援ソフトの活用

●スキルアップ事業に関わって

- ・小中学校教員の授業づくり、学級づくりへの指導支援を行う。
- ・ICT機器等を活用した授業づくりをサポートする。
 - ① 対象教員に対する個別指導を行う。
 - ② 夏季支援講座でのICT機器を活用した授業づくりの演習を行う。
 - ③ プログラミング学習の支援を行う。